

診療ネットワークの構築を目指す

脳の慢性疾患で、けいれんや意識消失などの発作を伴うてんかん。適切な治療を受ければ発作を抑えられるようになったものの、社会の中で偏見にさらされている患者や家族は少なくありません。患者の誰もが専門医療を受けられ、安心して暮らせるようにするにはどうすればいいのでしょうか。専門医療機関や地域医療、行政の有識者が、意見を交わしました。敬称略。

(コーディネーターは広島大 社会産学連携室副理事 山内雅弥氏)

医療鼎談 てんかんを正しく理解し、暮らしやすい社会に



広島大病院てんかんセンター長
飯田 幸治さん



広島県医師会 会長
平松 恵一さん

―最新治療の現状は。
飯田 てんかん治療の基本は薬物療法です。新しい抗てんかん薬が2006年から相次いで保険適用になりました。古くからあった薬より副作用が少ないのが利点です。患者さんの選択肢が広がり、以前より発作のコントロールが容易になりました。

一方で、複数の薬を服用しても発作を止められない難治性の患者さんが全体の3割程度います。そのような患者さんには、発作を引き起こす脳内の「焦点」を切除する手術を勧めます。

最近では磁気共鳴画像装置

―取り組みについて検討する場を設けました。
また、患者さんがより高度な治療が必要になった場合に、専門医にアクセスできる体制づくりも不可欠です。初診で病気を発見する1次診療(かかりつけ医)、MRI診断や抗てんかん薬の調整をする2次診療(地域の中核病院など)、難治性の患者さんに外科治療などをする3次診療(てんかんセンター)をつないでいく必要があります。そのため、広島大病院と2次診療を担う県内八つの病院関係者が参加するワーキング会議を開いて、連携体制を具体的にどう築いていくかを話し合っ

―も回数を増やして開催します。また、医療関係者を対象とした研修会も企画するつもりです。
飯田 世界的なてんかん啓発活動のイメージカラーは紫です。同じ紫がチームカラーのサッカーJ1サンフレッチェ広島とコラボし、啓発活動を展開しています。9月10日のホーム戦では、エディオンスタジアム広島(広島市安佐南区)内にブースを設け、サンフレッチェのロゴを配るなど市民にてんかんを知ってもらう機会をつくりました。

―仮に発作を起こしたとしても周囲が正しい対応をすれば、患者さんは就労もでき、普通の

サンフレとコラボし啓発 開業医の技能向上を支援 フォーラムや研修会開催

飯田さん
平松さん
菊間さん

(MRI)などの医療機器の進歩で、焦点の位置を診断する力が飛躍的に上がり、手術で発作が止まった患者さんが増えました。また、手術で完全に発作を抑えることができない患者さんも、外科的な補助治療法の「迷走神経刺激療法」が10年末に保険適用になったことで、回数や程度を緩和できるようになりました。

―治療法の進歩が著しい一方で、専門治療を受けていない患者さんが少なくありません。

菊間 広島県内のてんかん診療のネットワーク構築を目指しています。専門治療の拠点となる「てんかんセンター」が設置されている広島大病院(広島市南区)を15年、厚生労働省のモデル事業「てんかん診療拠点機関」に指定しました。そして、てんかんセンターを中心に医療関係者や県、患者、医師会などで「てんかん治療医療連携協議会」を結成し、てんかん対策の

―地域でも患者さんに近い開業医(かかりつけ医)の役割は、平松、てんかんは、脳神経内科や精神科、小児科などの医師がかかりつけ医として診療に関わっています。中には、1〜3回の診療体制を知らない開業医もいると思います。連携が途切れないようにしないといけません。

―かかりつけ医は1次診療の立場であると感じ、難治性と診断したら2次、3次の診療機関を紹介する必要があります。そのためには、かかりつけ医がてんかんに関して正しい知識を持ち、診断・治療のレベルアップや均一化が急務です。研修などのシステムを充実させていきます。

―てんかん発作が原因とみられる交通事故などによって、てんかんが危険な疾患であるかのような誤解も生まれています。どう啓発していきますか。

菊間 正しい知識を広めるために、昨年度は市民フォーラムやてんかんの児童生徒と接する機会が多い特別支援学校の先生向け研修会を開きました。本年度

―生活を送ることができません。患者さんが偏見にさらされず、安心して暮らせる社会にするために、多くの人たちの深い理解を得たいと考えています。

―ありがとうございます。



広島県健康福祉局長
菊間 秀樹さん

は市民フォーラムやてんかんの児童生徒と接する機会が多い特別支援学校の先生向け研修会を開きました。本年度

10月30日に市民フォーラム2016
「てんかんを考える」

飯田さんと福山市にあるこども発達支援センター所長の伊予田邦昭さんらを講師に迎えた市民フォーラム「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が10月30日(日)13時30分から、広島市東区の広島県医師会館1Fホールで開催されます。聴講を希望される方ははがき、ファクス、電子メールのいずれかで19日(水)まで(必着)にご応募ください。入場無料。定員は300人。応募多数の場合は抽選になります。

はがき 〒730-0854 広島市中区土橋町7-1中国新聞ビル8階 問い合わせ 082(236)2860
メディア中国医療セミナーチーム (土日祝除く9:30~17:30)
「てんかんセミナー」係 郵便番号、住所、名前、年齢、電話番号、参加人数、てんかんに関する質問(あれば)を明記してください。
FAX 082(232)7977 ※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。
電子メール event-2@media-chugoku.jp ※個人情報は聴講券の発送と、抽選にもれた方への通知(応募多数の場合)のために利用し、メディア中国が責任をもって管理します。

広島大病院てんかんセンター ☎082(257)1719